

# 博士課程教育リーディングプログラム現地視察報告書(平成26年度)

博士課程教育リーディングプログラム委員会

プログラム名称	多文化共生・統合人間学プログラム	申請大学名	東京大学
申請大学長名	濱田 純一		
プログラム責任者	長谷川 壽一		
<p>1. 進捗状況概要</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プログラムは順調に遂行されている。「統合人間学」(Integrated Human Sciences、略称 IHS) という多文化共生の諸課題を解決するための知の基盤を構築し、国際競争力ある新しい大学院教育モデルづくりに挑戦するプログラムであるが、採択後も改革に向けた取組を積極的に推進している。</li> <li>・新たに「教育プロジェクト」構想を立案し、実施している。これは、多文化共生における IHS のテーマの明確化と、社会連携強化を柱とした実習科目を提供する教育単位である。これにより、キャリアパスを見通した広範かつ体系的なコースワークの構築が見込まれる。</li> <li>・真に複数領域を横断する学位プログラムの充実に向けた取組に着手している。とりわけ人文社会系の学生が自然科学系の基礎を学ぶ演習環境としての「IHS サイエンスラボ」の整備が行われている。</li> <li>・統合ガバナンス体制を整えるために、「プログラム担当者会議」を設置し、改革理念の共有を図っており、教員の熱意ある姿勢が感じとれる。</li> <li>・指導体制のグローバルなネットワークが、国際メンターズチームや電子カルテシステムを通して整備されつつあり、学生たちも意欲的にプログラムに取り組んでいる。</li> <li>・世界に通用する確かな質保証システムとして、毎年次ごとに実施される QE 及び3つの外国語修得のガイドラインが策定されている。</li> </ul> <p>2. 意見(改善を要する点、実施した助言等)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実習科目群の1つである「学生イニシアチブ・プロジェクト」の実施を取りやめたことは、それに代わる教育単位として上記の「教育プロジェクト」が新たに設定されているものの、学生の主体的で独創的な研究を実践するための取組と期待されていただけに、残念である。その理念は、上記「教育プロジェクト」による実習や学生達の自主的な企画、運営による議論の場である「IHS サロン(仮称)」に引き継がれているとのことだが、プログラム生の独創的、主体的なイニシアチブを具体化する体系的な仕組み作りを更に進めていくことを検討していただきたい。</li> <li>・キャリアパスについてより具体的な取組が必要であるという、採択時の指摘に対しては、産学連携の充実や多様なキャリアパス構築の準備体制が整備されているなど、十分対応していることは確認できたが、プログラム生がどのようにしてグローバルな次世代のトップリーダーになるかというビジョンをより明確にしてほしい。</li> <li>・国際メンターズチーム(国内外のプログラム担当者等から構成)による「オーダーメイド」の教育は、その実質化、継続性、発展性の点でまだ課題を残している。とりわけ、海外からのメンターについては、自然科学系を含んだ専門分野に偏りのない体制づくりに取組み、さらに今後の履修生の増加とニーズの多様化へ向けて質量ともに充実を図り、その役割を明確化する必要がある。</li> </ul>			

- 留学の制度は、東京大学が有している既存の協定校などを駆使して、より個々の学生のニーズに合わせたオーダーメイドの留学が実現できるとよい。
- 社会人リカレント教育や留学生の人材育成については、まだプログラムとしてのビジョンが明確になってはいない。独自プログラム化を確実にを行い、多様な学生を獲得できるようにしてほしい。